天文學雜誌　第278號　（第24卷）　大正九年十二月二十四日第三種郵便物認可　毎月一回(一日)發行　昭和十九年十一月廿二日印刷　同十九年十一月廿五日發行

幹事　山本一清　理學博士

天文學雜誌

「天界」改め

（第24卷）　第278號　昭和19年

故水野千里氏記念

（特　輯　號）

主要記事の目次

水野千里氏の肖像と略年譜……230
教育者としての水野千里君を思ふ……山本一清 231
水野先生を憶ふ……小槇孝二郎 234
水野先生と私……奥田毅 236
思ひ出づるまゝの記……浦上宗衞 237
倉敷天文臺の水野主事を偲ぶ……藤原吉衞 240
水野千里先生を偲ぶ……石井蜂男 242
水野先生御尊父の思ひ出……田中永次郎 243
戰力としての天文知識……243
本誌上に於ける水野千里氏寄稿文の目錄……244
本會觀測部月報
流星（第151回報告：昭和12年三，四月）……246
小遊星パラスと其の經路（氣節の天象）……248
會　告……245, 247

本部：田上天文臺　東亞天文學會　事務局：滋賀縣，堅田



故 本會副會長 名譽會員 水野千里君 年譜（略）

明治11年(1878年)十月14日　岡山市にて出生．父漸氏，母比傳子．
〃　17年(1884年)十一月　綾部小學校入學，明治26年(1893年)九月岡山中學校に入學．
〃　32年(1899年)三月　中學校卒業，八月士官候補生として福知山へ入隊．
〃　33年(1900年)七月　父漸氏(邑久郡長)死去，明治34年(1901年)八月豫備役に編入．
〃　37年(1904年)六月　日露戰役に應召，出征，柝木城，遼陽，沙河等の戰闘に參加す．
〃　38年(1905年)三月　奉天戰，明治39年(1906年)一月凱旋．勳七等，功七級．
〃　40年(1907年)三月　岡山市立商業校に奉職，那須千代香と結婚．
〃　43年(1910年)三月　日本天文學會に入會．
大正 3年(1914年)八月　"天文一夕話" 起稿，大正4年(1915年)十二月東京，日光，宇都宮週遊．
〃　5年(1916年)十二月　九州各地巡遊，大正6年(1917年)三月後備役．
〃　8年(1919年)八月　山陰，北陸地方巡遊．
〃　9年(1920年)九月　東亞天文協會に入會．十一月，岡山支部長となる．
〃　12年(1923年)七月　北陸經由上京．
〃 13年(1924年)五月關西中學へ轉任，岡山市教育會より表彰，十二月岡山地理談話會創立．
〃　14年(1925年)七月　第三回岡山講習會（山本博士）
〃 15年(1926年)四月第四回岡山講習會(山本博士)，七月臺灣週遊，十一月倉敷天文臺創立．
昭和 2年(1927年)七月　北海道及樺太週遊．
〃　3年(1928年)七月　富士登山，十一月東亞天文協會名譽會員．
〃　5年(1930年)十一月　東亞天文協會副會長，昭和6年(1931年)一月入院．
〃　7年(1932年)五月　銀婚祝會，七月朝鮮週遊，十一月 O.O.A. 副會長再選．
〃　8年(1933年)三月　關西中學退職，四月より東京，長野，九州各地に講演．
〃　9年(1934年)六月　高松宮兩殿下を倉敷天文臺に奉迎，六月　岡山市門田18に移轉，九月 風水害にて被害，十月 O.O.A. 副會長に三選．
〃　10年(1935年)　四國，近畿，山陰，山陽，各地に講演．
〃　11年(1936年)三月　岡山縣教育會より表彰，三月末臺灣行，六月北海道に皆既日蝕を見る，十一月岡山市教育會より表彰．
〃　13年(1938年)　還曆祝會，昭和16年(1941年)六月26日逝去．

天文學雜誌

(第 24 卷)　第 278 號　(昭和19年)

教育者としての水野千里君を思ふ

Late Mr. Ch. Mizuno as an Educator

山 本 一 清 *I. Yamamoto*

大東亞戰の熾烈なる今年末の一日，故天涯水野千里君を偲ぶ．君にして若し今日なほ生存せば，67歳の年齡ながら，皇國興敗の此の轉機に當り，一層奮勵して，學術の（殊に天文知識の）普及のため，全國各地は言ふに及ばず，戰地の第一線にまでも出かけられるだろうと，しきりに思ふ．今日のやうな戰局に於いて，天文常識の徹底は，戰線に於いても，銃後に於いても，戰力增强上に最も要求されるべきことがらであるのだから．

水野千里君は明治11年10月14日岡山市に生れた．父は千之介氏，後，改めて漸と名乘られ，同縣東北條，津高，邑久の各郡に郡長として歷任，前後20年間郡政を變理された紳士であり，千里君は其の6男2女中の長子である．母は馬場氏より入つた比傳子で，此の一家のために生涯を獻げ，84歳の高齡を以て昭和9年に歿せられた．水野君は幼時，綾部，精業，鴨川，高倉，臥龍の各小學校を經て，明治26年岡山中學校に入り，其の在學中，海軍兵學校の入學試驗を受けたが，體格不合格となつたので，32年中學卒業後に第13期陸軍士官候補生となり，福知山聯隊に入つた．所が，翌年父の死に遭ひ，戶主となるに及び，一家を擧げて岡山市に定住することとなり，間もなく豫備役に編入されたので，身を教育界に投ずるに決し，中山，伊島の各小學校に歷任，會々日露戰役となり，明治37年6月應召，同7月第四軍に從つて大孤山附近に上陸，析木城，遼陽，沙河，奉天の各戰鬪に參加し，同39年1月宇品に凱旋，月末復員完結を以て母の許に歸つた．此の戰功によつて同年4月勳七等功七級を賜はつた．後，君は那須千代香氏を迎へて，結婚し，再び教育界に身を置き，白石大野各小學校を經て，明治40年3月末岡山商業學校教師となり，連續在勤18ケ年の後，大正13年更に關西中學校に轉じ，昭和8年定年にて圓滿退職，その後悠々自適の境地に入つた．この間，一男五女を擧げたが，昭和14年夫人が病死され，後2ケ年にて自らも他界されたのは，社會のため，又，同家のため惜しまれた．

元來の水野君の志望は軍人になることであつたらしい．それは上記の小傳にある通りで，中學時代に海軍兵學校へ入學を志したが，胸部扁平のため合格しなかつたのは惜しいことであつた．若し其の時に首尾よく合格したならば，今頃は一提督として帝國艦隊を率ゐ，又は軍令方面の責任ある地位に就かれたであろうと考へられる．とにかく，君が最初海軍を志望された事實は，やはり早くから天文學とのつながりがあることを感じる．海軍への道を阻まれて，同君は中學卒業後，直ちに陸軍に入り，士官候補生に進まれたことは，邦家のため獻身しやうとの熱情にもえた此の明治の青年に與へられた道であつた．ところ

が，不幸にして嚴父の死に遭ひ，一家の運命を双肩に擔はなければならぬ身となつたので，豫備役に編入されると共に，取り敢へず教壇に立つに至つた．しかるに，圖らずも日露大戰に際會し，筆を棄てゝ再び銃劍の人となり，野津將軍の下に，一下士官として，次いで參謀部員として奉天戰にまで參加されたのは本懷であつたらしく，老年に及んでも，この軍陣生活の思ひ出を屢々語られたのは知友が皆知つてゐる所である．日露役後は再び教育界に歸られたが，其の後は全く他を顧みず，專ら後進の訓育のために生涯を貫き，又，學術の普及のため身心を献げ，その間に多くの弟妹と子女とのために，母堂を助けて，指導に當られたのは上記の通りである．

水野君は地方官の家庭に育つた人であるけれど，決して官僚風に染まることなく，どこまでも人情味に溢れ，信愛の心に富み，天眞爛漫で，又，實に熱心に事を處する性格の有ち主であつた．これらの點から見ると，(軍人として成功したでもあろうけれど) 教育者として，生來，最も適した性格を備へて居たわけである．尙，それは，勿論，學校の教室に於ける資格といふだけではなく，又，(世の所謂多くの教育者は，教室内に於いてのみの形式的教育者であるが) 水野君は教室外に於いて，少青年に對する場合にも，一般の民衆に對しても，誠に親しみ，なつかしまれる教師であつた．

水野君は地理學の專攻者であつたと同時に，天文學のアマチュアであり，特に其の愛好者であつた．君はよく讀書した，と同時に，よく旅行した．こうした讀書と旅行とは地理學徒のためには必要な修練の道であつたが，しかし君の此の性癖は，決して職業的な意識からではなくて，どこまでも地理學を愛好するからであつた．こうした學術に對した愛好性は，又，決して自己のみの樂しみとするに止らず，其の樂しみを人にも頒け與へて，共に樂しまざれば止まないといふ傾向を有つてゐたために，君が日常接する人には，老少男女の誰にも區別する所なく，同じ趣味にひたらせやうとする熱情にもえてゐた．本誌の別項に，水野君の知友や弟子たちの追憶文があるが，其のうちの何れを讀んでも，同君の此うした性格は明瞭に現はれてゐる．

地理學といふものは，所謂“未組織の學問”である．言ひ換へれば，地理學の内容には，數理，敍述，人文，天然，史論，政治，經濟，地誌，地學等々の面が混在してゐる．言はゞ，世の中のあらゆる事象を知つてゐなければ，今日の普通の地理學なるものは理解し得ないものである．こうした地理學を專攻される水野君は當然豐富な常識の有ち主であつた．しかし，この水野君は更に一面に於いて天文學の愛好者であつたといふことは，吾々として深く味はなければならない事實である．言ふまでもなく天文學は最も徹底的に“組織された學術”である點に於いて，所謂地理學とは對蹠的であると言ひ得やう．尤も，一口に天文學と言つても，最近の宇宙學や天體物理學の中には未だ未組織と言つて差し支へないやうな混雜した部分もないわけではない．けれど，天體力學や球面天文學の如き古典的な天文學は整然たる組織を有つてゐて，容易に人をして近付かしめ得ないものがある．世に地理學者は多い．しかし，地理學から天文學へ入るについては並々ならぬ隘路がある．水野君が果して地理學から天文學へ入られたものか，又は其の逆に，天文學から地理學へ進まれたのかといふことは聞き漏したが，とにかく，同君は晩年に至るまで孜々として新天文學書

を勉強してゐたのを自分は知つてゐる．勿論，專門家でない天文家たる水野君には容易に理解し得ない點も少なからずあつただらうと思はれるが，それにも拘らず，少しも倦まずに勉學しつづけられた同君の熱心には敬服させられた．

しかしながら，やはり水野君の本領は教育者であつた．しかも此の教育者は高い教壇の上から學徒を見下す教育者ではなくて，むしろ壇から下り，自から學徒の手を執りつゝ，指導せずには居られない情熱を有つてゐた．否，それのみならず，更に一歩徹底して，後輩を導きつゝ，遂には彼を自身よりも高い壇に登らせるのでなければ滿足しないやうな場合が屢々見られた．自分は二十年來水野君との交友中に，同君の後輩であつた青年たちが，いつの間にか同君以上の天文學者になつて了つた例を尠なからず知つてゐる．

自分が水野君を知つたのは大正十一年頃からである．その最初の日から臨終の日に至るまで，同君とは眞に心おきなく交はつた．この間，一日として，又，一刻として，交情に隙のある時は無かつた．尤も，初めの頃は互ひに語る話題は天文關係のことが多かつた．しかし，後年に及んでは，もはや學術の域を超えて，其の接觸面は廣かつた．この長年にわたる交友生活を通じて，相信じ相援けて日を過したが，その間，同君の友情は決して慣れ合つて了うことなく，禮儀は禮儀として維持しつづけたのは其の貴い人格の現はれであつたと思ふ．

水野君はよく旅行した．中國や近畿地方は言ふまでもない．北陸や東北から北海道，樺太まで，又，四國，九州，琉球，壹岐，對馬，臺灣，さては朝鮮まで，同一地方へ二度も三度も旅し續け，殊に關西中學奉職時代や其れ以後に多かつた．そして絶えず新知見を廣めると共に，至る所の未知既知の友を訪ね，特に天文愛好者を襲ふことも屢々であり，賴まれて（或は自ら進んで）天文講話をはずませ，人々を喜ばせると同時に，それによつて自身も亦樂しみとした．說話は巧みであり，尙，年月を經るにつれ，益々其の話術は洗練されて，大衆の心に喰ひ入つたあらゆる喜びと樂しみとは，君一個人が恣まゝにするのでなく，出來るだけ他の人々にも同樣に樂しませるのを目的とした．——水野君自身は永く公職に就いてゐたため，旅行の樂しみは，上記の如く，ほゞ當時の我が日本の範圍に限られたのは止むを得ないが，さすが地理學の專門家であつただけに，關心は全世界に擴がつてゐたらしく，其の子女にも，臺灣や奥滿洲や南米あたりまで，極めて氣輕るに旅行をさせ，世界を自己の邦家の如く考へてゐたのは，一寸，一般人が眞似の出來ない度胸であつたと言はなければならない．

水野君が何時頃から天文學に趣味を有ち始めたか，自分は知らないが，明治38年初，日露戰役に從軍中，遼東三塊石山に滯在越年の日誌に“天涯”の號が見えてゐることから考へると，既に其の頃一かどの天文家を以つて自任してゐたらしい．戰後，明治43年初，ハリ大彗星再來の期を以つて日本天文學會に入り，其の翌年岡山博物學會に於いて“秋の天空”に關する處女講演をした記錄がある．吾々が東亞天文學會を創立した大正9年には卒先して入會し，同年末には其の岡山支部長となり，六高の宮原教授等と相携へて新會員の募集，數次の講習會開催，太陽流星黃道光等の觀測に努力し，其の結果，岡山には一時本會員の數が二百名を突破する盛況であつた．昭和3年には本會名譽會員に推

され，同5年以來11年まで副會長に擧げられたのは，全く君の平素の努力と効蹟に因るものである．

水野君の天文家としての事業は，後輩の指導と，倉敷天文臺の創立乃至計營とに集中された觀がある．後輩の指導は極めて個人的なことがらで，本誌別項にも詳細に記されてあるから，自分は省略することにする．倉敷天文臺については，其の創立の前後から最近年に至るまでの一貫した計營に，自分は同君の眞摯と，熱心と，事務的才能とを絶えず見せられて，感謝敬服の念を禁じ得ない．原氏の絶大な後援と共に，同君の熱心があつたればこそ，この唯一の民衆天文臺が年々數千の來觀者を惹きつけたのである．この天文臺の業蹟は本誌上に年々報告された記事によつて明らかである．

三十年前に比べて，我が國内に於ける天文知識の普及は今日眞に隔世の感がある．初等中等の學校課程にも天文教材は著しく增加し，アマチュア天文家の業蹟も諸外國に殆んど劣らない．かうした現況を齎した事の一部は確かに水野君の力である．全國に殆んど其の足跡の至らざる所無く說きまはつた同君の天文談は，多くの天文趣味者を育てた．又，倉敷天文臺は同君の永久の紀念碑である．しかしながら，よもや同君と雖も大東亞戰爭が其の死の直後に起るとは考へてゐなかつたであろう．廣大な經緯度にわたる此の大戰を作戰する一大要素は實に天文學と其の知識の普及である．英米の敵將兵が果して如何ほどの天文知識を準備してゐるか明らかには知り得ないが，皇軍の將兵が此の種の學識を自由に驅使して，必勝の戰果を擧げられんことは誠に願はしい．止むなく我が水野君の無き今日，第二第三の，否幾百人の水野君の輩出することによつて，戰野にも，銃後にも，天文學術の普及が徹底せんことこそ望ましい限りである　(1944—12—6)

水野先生を憶ふ

小槇孝二郎

還曆を迎へられて，なほ壯者をしのぐ元氣で天文行脚をなされてゐた水野先生——私の心に描かれてゐる先生の面影は，元氣そのものの以外にない．私は先生の逝去を夢としか思へない．

× × × × ×

時は二十年前，大正十年一月に遡る．當時私は岡山師範の三學年に在學してゐた．一年上に在學してゐた水子君に紹介されて，水野先生を知ることになつた．一日，同君に誘はれて先生の御宅を訪問，かなり長座して，色々天文の話をきゝ，先生の紹介で，卽時，天文同好會の會員になつた．

私は元來生れつきの天文ずきか，天文のすきになつたといふ特別の動機はない．小學校在學中に特に地理がすきであつたが，これが對象を擴充して天文趣味になつたと云ふが適切か．小學生時代にも天文に關する本を二三冊はよんだ．師範一年に入學した頃に，攝動と云ふ言葉をつかつて天體運動の說明をした折など，數學の先生に妙な顏をさせた事もあつた様である．其後二年間は，

實は，よき指導者がなかつたので，天文ともしばらく縁切りの有様であつた．尤も自分が圖書掛をしてゐた關係で，寄宿舍の圖書室にあつた十數冊の天文書は大ていは讀んでしまつてはゐたが．ところが天來の福音とも云ふべきか，よき指導者たる水野先生を得たのである．以後毎月一二回はは先生の宅を訪問したり，時々催された岡山支部の例會に行つて，自分の知識慾を滿したのであつた．

大正十年の夏，私は始めての流星觀測をやつた．八月のペルセウス群をねらつたものだが，全くの我流で，記錄なども不充分なものであつた．とに角，流星輻射の狀況を觀察して，星圖に記入した．この不完全な觀測が水野先生の手を通じて山本先生に送られた．これを以て山本水野兩先生から，大いに激勵された．私が流星觀測に志すに至つたのにも，かうした因緣がある．

同じ年の冬．岡山で最初の天文講習會が開かれた．講師は山本先生，題目は“實際天文學”．この時は水野先生が終始骨を折られ，六十名許りも集つて，中々の盛會であつた．

翌十一年三月私は岡山師範を卒業し，鄉里津山の方に赴任するに至つて，美作の會員が集り，美作支部を設立した．設立にあたつて先生の援助を賜つた事も一通りでなかつた．二度，三度，津山に先生を迎へて，天文の講演會を催した．

先生の天文行脚としての足跡の中，岡山縣下はほとんど餘すところがなかつた樣である．說明用の圖を小脇にかゝへ，他の片手には望遠鏡をさげて，どこへでも行かれた．

私が和歌山縣の現在の所に轉じた後は，直接御指導を受ける機會は比較的少なくなつたが，岡山や倉敷天文臺で講習會のある度に色々世話になつた．大阪や京都での天文協會の總會には，大抵出席されて，岡山支部や倉敷天文臺の盛況を報告してゐられたが，私も總會には差支ない限り出席してゐた爲，よく先生の健康な御姿に接して，御活躍を祝福したことであつた．

昭和9年十月母堂の御逝去あり，次で昭和13年夫人を喪はれて，先生の私生活には不幸が相次いだのであつたが，其の間にも北海道への日蝕觀測，倉敷天文臺の經營，各地天文講習會の開催等に撓まざる努力をつゞけられた．

先生の他界を見るに至つた事は，本邦天文學界に於ける大なる損失であるが，倉敷天文臺を中心としての岡山地方の天文愛好者にとつての打擊は實に大である．

× × × × ×

憶ひ出すまゝに先生のプロフィルを描いて見たい．

先生は徹底的な星座の愛好者であつた．天界の第一卷より殆んど毎號物せられてゐる“星座の話”はこれを證するに餘りある．星の美を讃美し，星座の妙味を味はれた人として，先生の右に出るものは恐らくなからうと思ふ．星座に關する研究は實に微に入り細をうがつたものであることは其の著書に於てあまりにも明らかである．

先生は愛書家であつた．我が國で發行された邦文の天文書で先生の書架内に洩れたものは先づ絕無と云つてよからう．よくもあれ丈集められたものだ．先生は毎月の收入の中，何割かを必らず天文書の購入に充てられてゐた．これは

實に大正10年頃より，逝去の年までつゞいてゐた．毎年發行の天文書の短評を試みられ，其の梗概を發表されてゐることは本會員の全部が知悉してゐる事である．

先生は實に旅行好きであつた．しかもこの旅行は天文との關聯のないものはない．各地の天文家を訪問され，談じ談じて徹底された事は枚擧にいとまがないであらう．天界誌上に載せられた天文旅行談も十指にあまる程である．この中，中國，四國，近畿方面は特によく旅行されたところで，其の足跡は實によく行き亘つてゐることと思ふ．

先生は實に美しい心の持主であられた．無慾恬淡，實に聖者の如き品格を持たれてゐたと思ふ．痩軀ではあつたが，強健であつた先生．飄々乎として東西に奔走された先生．明け放しで，實に明るい生き方をせられた先生．私の先生についての追憶はかゝる美以外に何ものもない．

私は總會や講習會の際に於て再び先生にお目にかゝれぬことは，天界誌上，先生の星座美談を見得ぬこととともに，無上の淋しさを感ずるものである．

先生があの溫い眸で，天空を仰がれてゐた其の面影は私にとつて永久に忘れ得ぬところである．（昭和16年九月26日）

水野先生と私

奥田 毅

學校の教室で正式に習つた講義や教師の顔は，卒業すると日々に忘れて，記憶が薄れ行くものであるが，教室以外，學校以外で受けた知識や印象には非常に永く殘つて，十數年を經た後でも，時々重要な役割を演ずるものがある．初めは意識して居なくても，氣がついた時，あまりにも影響が大きいので慄然とする事さへある．そうした强い印象や，知識を與へて下さつた方々には，深甚の敬意と感謝を捧げなければならないと思ふ．水野先生は，僕にとつて其の内の最重要な御一人である．

もう十數年前の事である．或日，岡山の書店で立讀をして居た中學生の僕の目についたのは，一冊の卵色の表紙の小冊子であつた．書名は不幸にして失念したが，内容は學校の國定教科書中の天文教材の解說で，序文は山本博士の筆であつた．頁數の小なる爲，内容は甚だ簡單であつたと記憶するが，僕に與へた印象は强烈であつた．それを讀破すると直ちに“星座の親しみ”を讀み，“肉眼に見える星の研究”を買ひ，一戸，古川氏等の天文書に豐富ならぬ小使錢をはたいて，一躍自稱天文學者になつてしまつた．間もなく圖書館で“天界”を發見して，直ちに本會に入會した．水野先生に初めて會つたのは，この入會直後である．最初に來た“天界”を開くと，本會の岡山支部と云ふ字が眼にとまり，天界研究會と云ふものが毎月一回開かれて居る事を知つたので，早速支部長水野先生に手紙を出して，「天界研究會に出席したいが，その會場の六高M教授のお宅は何處ですか？」とたづねた．水野先生からの返事は直ちに來たが，葉書にテイネイにM先生宅までの地圖がのつてゐた．先生のお話を初めて

拝聽したのはそのM先生のお宅であつた．その後，高校生活も岡山で過したので，數年間は毎月數回もお宅におしかけて教へを受けたが，初めて7センチの望遠鏡で見せていたゞいた火星の赤色と極冠の形は今に到るまで明白に記憶に殘つて居る．

岡山で天文の會合がある度に必ず先生のお姿を拝しない時はなかつたが，倉敷天文臺が創設されるや，先生は其主事としても盛な活躍を開始された．

その當時の事であつたと思ふが，六高在學生數名が委員になつて，岡山で天文展覽會を開催しようと計畫し，先生に御相談したところ，直ちに御賛成になつて，會の本部との御交渉の結果，岡山市唯一の百貨店天滿屋で開くといふところまでこぎつけた．此時，京都から出品を持參される方が眞夜中に岡山へ到着される事になつた．「荷物が太きいから出迎へてくれるよう」との事で，早速引受けたのはよいが，委員一同が寢過して，結局水野先生御一人が深更岡山驛まで出迎へて下さつた．委員一同は大變に恐縮したが，先生からは別に何のおしかりもなく，翌日の夕方には却つて委員一同に慰勞の御馳走までして下さつたので，大いに恐縮したのであつた．この展覽會は，會期は短かつたが，非常に盛大であつたので，委員側では大いに得意になつたものである．

その後，大學に入學と共に水野先生には屢々お目にかゝる事が不可能になつたが，“天界”誌上でお名前を拝見する度に，なつかしさを感じ，又，科學者として生活する樣になつた入り口を示していたゞいた方々の御一人として，限りない感謝の念を有つて居る．こゝに，憶ひ出の拙文を草した樣な次第である．

（阪大，物理學室にて）

思ひ出づるまゝの記

うらかみ生

“天文の叔父さん”，“天文の先生”と申せば，誰でも水野先生だと思ふ．その水野先生の長男宙一君が（只今中學生だ）幼年の頃，

“うちのおとうちやんは地理の先生だから千里（チリ）といふ名じや”

とよく言つて居つた．私はいつも

“不見（ミズ）の（水野）地理（千里（チリ））ではだめだよ，見て來なくては地理は話せぬ”

と，からかふと，宙一君は何時も

“うちのおとうちやんは見ないところはない．日本中を巡つて居る”

と答へる．水野君の天文に熱心なことや，旅行がすきで，方々へよく行つて居ることは，之でもよくわかると思ふ．

水野君が六ケしい天文の知識を通俗化して，大衆的とし，よく普及せしめた功績は大なるものがある．夕食しつゝある所へ

“オイ今夜は彗星が見えるぞ”

といふ聲が聞えたと思ふと，はや私の門前に望遠鏡をすえて，通行の人を一々のぞかしめて居る．知り人であると，知らざる人であるとの區別なしに，引き止

めて話して居る．或は突然某家を訪れて，望遠鏡で月や土星や木星．金星など．珍らしそうなのを見ることをすゝめ，遂に其の一家と親密の間柄となつたといふ風に，中々天文趣味の普及に努力された．或る時，例により路傍で望遠鏡をのぞかしめて居る所へ，ハツピ姿のヨツパラヒ三人が聞き苦しい放歌して，道ぢゆうを練つてやつて來た．すると，道の眞中で望遠鏡を中心に數人が集つて居るので，

“コリヤ何だい”

といひつゝ，望遠鏡の傍に來り，

“オヤ，エレーモンダゼー”

と一人がいふと，水野君，すかさず

“オィ君，之をのぞいて見よ”

といふ．三人共，ヒヨロヒヨロ足で，のぞかうとすると，水野君

“オイ之は望遠鏡だぞ．アソコの白く雲の様に見えて居るのは何だ．あれは天の川だらふ．その天の川を一寸のぞいて見よ．どんなに見えるか，そら見よ”

サア大變，

“オイ，コラ，一寸見せて貰へ，エレーモンダゼー．雲じやネーゾ，線香の火のより合ひだ,”.

“ソウカ，ホントジヤナー”

と，三人共感心して，今の放歌はドコへか行き，醉ひは，何時の間にか水野君の口より出づる通俗天文學によつて，さめて仕舞ひ，三人共空の話をなしつゝ歸つて行く．

又，私は師範學校在職當時，寄宿舍の生徒をして，將來のため，天文の一部を實地に研究せしめて置きたいと思つて，一年に一度か二度位，水野君を聘して望遠鏡をのぞかしめた．或る夕，二部生の一人が望遠鏡をのぞき，

“アラ星も月の様に圓いのぢやなあ”

と言つたので，一同吹き出したが，星は矢張り☆の形をして居るものと思つて居つたらしく，一向合點が行かぬらしい．そこで水野君，

“それでは，君は望遠鏡を疑つて居るかも知らぬ”

と，運動場の中央より附近の御宮の電燈に向けて，電球の形を見せ，又，料亭の電燈を透して松の葉を數へさせ，望遠鏡は正しく見せる，星も月の様だと，二部生を感心させた．

次に，水野君は，遂に大なる考へを私共に話した．それは外でもない．此の岡山に天文臺を設置したいとの事だ．其の中，山本博士に話し，博士のお指圖により，計畫をすゝめ，望遠鏡も丁度適當なのがロンドンにある，電報一つで我ものになるとのことで，水野君は喜んだ．大に喜んで，之から次の問題に努力した．それは資金の出所と，適當な位置の考究である．數人が度々連れ立ちて，東山に萬成山にと，交通が便利で，電燈の妨害を受けぬ所をと研究した．色々の關係から，原澄治氏の努力により，其れは遂に倉敷に決定した．今の倉敷天文臺が卽ちそれである．民衆的で，斯様に立派な天文臺は我國では他にない．全く水野君の努力で，當地方に出現したのである．

旅行ずきの水野君は，日本全國を，北は樺太より，南は臺灣琉球に及び，尙，滿洲にまで，足跡の及ばぬ所はない．その道のりの延長は實に 50000km に及

んで居る．口でこそ 50000km といふけれど，之れだけ旅行することは中々容易のことではない．その中でも，天文行脚といつて，天文知識の普及につとめつゝ旅行されたことは，一寸他の人が眞似ることの出來ないことである．であるから，日本國中どこの話をしても，すぐと話が合致する．又，地球以外の天體の話になると，深い理窟でも，通俗的のことでも，昔話でも何でも口を突いて出て來る．老人でも若いものでも男女の區別なく，子供に至るまで，皆を相手に話して，人をしてあかしめない．そして，之れらの人々に何かの知識を與へるといふ風である．

又，水野君は，幼少の時からの友だちや，恩師のことを今に忘れずに，互に往來し，文通して，舊交を溫められつゝあることは感心の外ない．

或る時，水野君は，私に

“これらの友人學友恩師に記念のため寫眞一枚づゝ貰ふと思ふが如何”

とのことであつた．私は，

“それは大變お結構の思ひつきだと思ふが，私なら，まだ望は外にあるが”

と申すと，

“それは何か”

とのことであつた．そこで，私は

“その方々に何か一筆の揮毫を願つては”

と申すと，

“それはよい”

との事に，早速色紙を送つて願つたところ，次ぎ次ぎに澤山の揮毫が集まつた．實に立派な貴重な記念品だと，私まで嬉しく思つて居る．之は其の後圖書館に陳列されたから見られた方が澤山ありませう．最後に，水野君は誠によいお父さんであり，よい夫である．一男四女という子福者で，之れらの子供をそれぞれうまく育てあげ，長男宙一君を中學に入れて，最後を立派に飾らうと，スタートを切つた．宙一君は毎日活氣あふれた姿で通つて居る．ここに一つ，甚だ遺憾なことは，奥樣が永く病臥されて居られたことである．併し，水野君は誠に至れり盡せりの看護を自らして，倦むところなく，奥樣も非常に感謝され，一日も早く快くなる日を待つて居られた．その傍，還曆を迎へたからとて，色々のことを計畫された．私は永年の親友であり，相談相手である所から して，常に往來して話したが，第一ばんに奥樣の御快癒せられることを祈りに，奥樣が逝くなり，それから御自身も世を去られた．

“お互に今後尙十年二十年長生きせうぜ”と申した次第であるが，殘念なこと

まだまだ書きたい事は澤山あるが，餘りに長くなるから此のへんで擱筆することゝする．最後に，私は

かきりなきみ空の星を
うち仰ぎ
君のよはひも
かゝれとそ祈る

と，君の幸運を念じてゐたのに，別れて了つたことは痛惜の至りである．

倉敷天文臺の水野主事を偲ぶ

藤 原 吉 衛

東亞天文學會名譽會員水野千里氏は，又，倉敷天文臺の創設以來の名譽主事であつた．臺長山本博士とは早くから親交のあつたことは申すまでもないが，實に同天文臺の今日の隆盛は水野主事の蔭の努力の結果であることを私は屢々目擊して來た．

大衆のための天文臺の本領は，無統制な地方民に學術を公開することばかりでなく，或る時は數十名の女學生や各種中學生に教育を與へなくてはならない．或時は專門學校や，高等學校や大學の學徒のための研究資料を與へなくてはならない．又，或る時は熱心なるアマチュアの爲によき指導者とならなければならぬ．そして，その訪れる團體の社會層は種々で，會社員も居れば，農民も居るし，鐵道從業員も居れば，定期の相場師も居り，丁稚子僧も居れば，有閑婦人が官吏たる主人を伴つたのなども居る．それらの雜多なる人々の天體に關する質問は，又，それぞれ雜多である．夏の夜の七夕祭りの特別公開日等はこれ等の質問に丁寧な解答を與へるのは，考へて見ただけでも，汗に塗れる思ひがする．それを又，我がことの如く，とても喜んで業々岡山市から鐵路四十分ばかりを馳けて約束時間前一時間も二時間も前から出て來られる．そして，何時も定つたやうに，案內の計畫を建てられる．今の世に電話一つの應答さへ五月蠅(うるさ)がる人もあるのに，これは又親切丁寧であることは天體の神そのものの如き聖人でなくては出來ないことである．倉敷では，例年の夏季行事として天文講習會を開催するが，その根本的な主旨の樹立から，案內狀の發送や，當日の會場の世話から，講師先生の接待や，一般受講者の世話に到るまで，文字通り汗だくの仕事を，先生は一人でなさる．私は，何時も，先生の額が，汗の瀧となつて，ピカピカ光つて居るのを拜見して，崇高なる星の光と思ひ合せたものである．

每月第一・第三の土曜の夜が定期公開日になつてゐることも，大衆天文臺の大きな仕事である．どんな暑い夏も，又，寒風肌を刺す嚴冬も，水野主事は，默々として風呂敷包みを一つ小脇に抱えて，岡山市より遙々と來られる．曇天の夕方であつても，若しも晴れたら星を見る客が來ると思はれてか，必ず，やつて來られた．運惡く雨にでもならうものなら，來客は一人か，又は，一人も來ない——大衆の勝手さを偲ばれる．それでも，技師の人と何かの打合せや，研究談に時を過し，定刻21時40分が來なければ席をお立ちにならない．時候のよい頃はまだしも，しとしとと落ちる小雨の中を，寒い冬の木枯しに足をさらして，雨戶をしめたひつそりとした街を，倉敷驛から岡山へと歸つて行かれる．私は先生の後姿を送つて，あたかも太陽の運行そのものゝやうな正確さと正義の念にかられて，流れ出る淚を禁じ得なかつた．

或る時，私は，岡山縣理科教育同好會の會員數十名を引率して，倉敷天文臺の水野主事に“夏の星座”の實地指導を乞ふたことがある．私は，その趣旨と，時刻と，人員數とを，簡單にお知らせして置いただけであるが，先生はそ

れはそれは多くの準備をして下さり，數多の天體寫眞や，幻燈や，其の夜のための星座書をプリントしたり，又，掲示用の大星座書を作つて，約一時間の豫備講演を行つた後，夜の空を仰いで詳しく説き去り，説き來り，日本のものとし，又，支那のものとし，又，ギリシヤや西歐のものとせられる．神話もありがたいが，傳説も尊く，又，進歩せる科學研究の結果の御話も貴重なものであつた．私は豫想外に身についた有難いものであつたから，歸途の車中で多くの會員に聽いて見た．會員は異口同音に，先生の熱心さと，その高潔なる人格を讃美した．星が先生の人格を作られなのか，先生が星を貴いものとせられたのか，私共一同にはわからなかつた．翌日，宅に先生を訪れて昨液の禮を述べ，金一封をしるしとしたいことを告げたが，先生は倉敷天文臺の趣旨を話されて，どうしても受けられない．先生の人格は，どうしても私には分らない程，餘りにも大きく，高く，清く，明るいものであつた．奈良縣教育會から，天體研究のため適當なる講師を推薦せよ・との手紙が來て，私は水野先生を推したことがあるが，その時の奈良からのお禮の手紙の中にも，先生の人格が高潔で，熱心で，抱容性と指導性に富むことが書かれてあつた．先生は，長い間，關西中學校に教鞭をとられ，又，九州方面へは天文行脚をなさり，早くより滿洲の天體と氣候の研究を行はれ，今日の日滿關係開拓の父であつた程である．

“天體などを研究する學者は，兎角，深みの割合に，廣さの伴はない人格の持ち主が居る”とは，山本先生の持論であると拜察するが，實際に大東亞共榮圏を確立するものは，物でもなく，研究調査でもない，人の精神，卽ち，人格である．個人主義の人格は自由主義を理想とするが，それは唯物的な世界觀には適用せられても，大東亞共榮圏には適用出來ない宇宙觀である．我々は，今こそ人格に抱容性と發展性とを培養し，以つて大東亞の各民族を共榮させるやうな指導者でなくてはならない．此の意味に於て，水野先生は，接する人をよく容れ，人格の深さと廣さとを圓滿に發達調和され，學者として天體を深く極め，若輩を導く指導者として適切に指導せられた．從つて氏を知る人は社會の各層に極めて多い．實に山本臺長と學究者や技師達との間にあつて，よく調和を取られた安全辨の役をなされたのは，先生の人格そのものであつたのである．

東西天文學會の岡山支部の例會は，每月，主に先生の宅で開かれた．縣下の會員は皆んな案内狀を每月戴く．それは恐らく十數年前からのことであらう．私が關係を有つやうになつてからでも既に十餘年の年月が過ぎた．不幸にして，地理的關係から，私は一度も顔を出したことがない．又，不參加の返事を出したことさへ二三度しかない．それでも，先生の肉筆の案内狀が例月來る．私は，その度に，身の縮まる思ひがする．そこで，先生と面談の際は，何時も最初にそのお斷りから始まる．先生は何時も高い鼻の兩側に深い皺を寄せられて“君からは返事が來ないのが定りになつてゐる．返事がない時は，君が熱心に研究してゐる時だと知つてゐる”と言つて；大きな聲で笑はれる．その時は，限りなき慈母のやさしさを全身一樣に感じて，努力せざるを得ない生氣を吹き込まれる思ひがする．

昭和十一年の秋先生は御夫婦の寫眞を贈られた．天文學會の副會長の頃であつたから，全會員へ贈られたものと思ふ．そして，何か記念に一筆書けとのこ

とであつたが，私は不幸にも書くべきよき材料を有たなかつた．

そして，今，全力を擧げて此の文をしたゝめた．以て生前の先生の御高恩の萬分に報ひたい．

水野千里先生を偲ぶ

石井峰男

昭和十六年の六月末，御嗣子宙一氏からの先生の訃報通知を頂いて驚いた．瀬戸黄道光觀測所にゐられた本田實先生から，水野先生の御病氣である事は聞いてゐたが，この訃報に接しやうとは夢にも思はなかつた事である．

瞑目して先生を偲ぶに，在りし日の先生の面影がはつきりと眼前に浮ぶと同時に，過ぎし日の事ども恰も走馬燈の樣に次から次へと浮んで來る．

想へば今から二十數年の昔，大正九年九月二十六日，まだ自分が岡山縣後月郡にゐた頃，山陽新報に“京大山本理學士（現在の山本一清博士）等が天文同好會を組織され，二十五日午後三時發會式が擧行されて，新城博士が『天文學の使命』，百濟理學士は『太陽系の擴張』と題し，有益なる講演があつた”との記事が揭載された．星好きの自分には，之が非常に嬉しく，速刻入會の申込をした．處が，十一月になつて“天界”第一號が屆けられ，之れに十月末現在の會員名簿が同封してあつた．勿論只一枚の表裏刷りのものであつたが，見ると，岡山縣では水野千里氏と私の二人丈であつた．數日後「未見の友石井大兄よ，會員名簿で大兄を知つた．星を媒介として茲に兄弟の緣を結びたい」と認められた先生からの手紙が來た．一度も聞いた事も見た事もない方から，こんな親し味深い手紙を貰ふのも矢張り星好きのお蔭で，心が相通じたのだと思ひ，喜んで返事を出したのが，先生との知り合ひの最初であつた．

その翌年の夏の事である．先生の御世話で山本一清先生を迎へ，岡山市商で天文講習會が開かれた．その時，先生の氣付で參考室が設けられたが，當時は，現今と違ひ，天文に關した著書等が極めて尠い時代であつたのにも拘はらず，よくも澤山集めてゐられたもので，古書や新書を部屋一杯に並べて，一般受講者にそれぞれ說明を加へてゐられた．藏書も多いのに驚いた許りではない．新聞雜誌の切り抜きを纏めて，部厚い帖が數册出來てゐた．その熱心さ，趣味の豊かさ，ほんとに一同感激したのであつた．

先生は亦天文學に關しては殊の外造詣深く，既に素人の域はとつくに脫してゐられた．古い事ではあるが，大正九年十一月の天界第一號に「天文と旅行」を皮切りに，第三號へは「余の天文好となりし徑路について」を載せられ，以後每回の樣に先生の名筆が載せられてゐた．著書も亦可成り多かつた．

又，先生は，夏季及冬季休暇を利用して天文講習會を開く事に餘程力を入れて下さつた．山本一清博士を講師として倉敷の大原講堂に私は幾回となく受講したものである．而も，この講習會は中々盛大なもので，遠く四國，九州方面から出席者があり講習終了後，愈々別れる段になると，會員は競つて先生に再會を約したものである．初めて逢つた會員達が，これ程先生に親しみを覺えるのは，矢張り先生の圓滿な美しい人格が，かくも人を引きつけられたのだと思ふ．

私は，金砂の如く瞬く星の下で，或る一夜先生と語り盡した事がある．先生は飯より星がお好きであると，この時思つた．

我が東亞天文學會が發會後二十餘年を經過した今日，益々隆々發展して來た事は山本博士を始め，幹部の方々の一方ならぬ御盡力の賜であるが，又，一面，水野先生の終始變らぬ御熱心御努力も大いにあづかつて力ある事を忘れてはならないと思ふ．

茲に二十餘年の御友情に對し衷心感謝の意を捧げると同時に，先生の御靈前に本文を捧げて合掌す．

水野先生御尊父の思ひ出

水野千里君は，故岡山縣東北條郡長水野漸氏の長男にして，小生は十八歳の時，同郡書記に任ぜられ，同郡長の配下に屬し，七ケ年の永き間，厚き指導を受け，殊に愛撫を蒙り，幸に吏務に通達し得るに至らしめられたる者にて，明治十九年十月一日官制改革あり，其の當時十三等相當以上の地位に在る者は新令に依り判任の郡書記に任ぜらるべく，其れ以下の者は雇員を命ぜらるべき境遇に置かれ，小生は十五等相當なりし爲，其の運命を危ふみ居りしが，大英斷を以て同列書記三人中より小生一人のみを非常抜擢，特に二級を進め，判任郡書記に任官せしめられたり．其は無上の名譽にして，嬉しかりしこと片時も忘るゝ所無く，其の任官が立身の動機となり，裁判所書記に轉任，朝鮮統監府警部屬官に任官し，高等官たる副理事官に登用さるゝ時など，孰れも無試驗にて通過，韓國檢事，朝鮮總督府檢事に任用さるゝ時も無試驗登用を受け，眞に終生を利し，初念の及ばざりし榮達を遂げ得たる次第なり．鴻恩は山海も啻ならず，忘却は爲さゞれども其の萬一にだも報ずること能はざるを慚づ．御岳父は廉直豪毅にして質素を尚ばれ．郡民を愛撫して，指導啓發に全力を傾けられ，郡制施行前には竹槍蓆旗の根源地なりし東北條郡も，王化に浴し，文運駸々として進み，平和の理想鄉となり，郡民擧つて父の如く敬ひ，高德を慕ひ奉れり．郡衙に出勤さるゝ時も，郡内巡視或は出縣さるゝ時も，綿服に茶色紬の羽織と小倉織にて，色糸は褪め果て，外見には白無地の如く見ゆる古袴を着用され，平然濶歩されし英姿は今尚眼前に髣髴たり．當時，盛名は縣下一般に轟き，誰の作りしものか知らざれど，“わたしや綾部の郡長さんが好きよ，何時も茶羽織白袴”との民謠一般に流行したり．千里君は小生着任の時四歳の幼兒なりし爲，小生の腦底には何時までも坊ちやんと思ひ居りしのみならず，長ぜられて軍務に服し，日露の大戰に從軍され，殊勳を奏し，金鵄勳章拜受後伊島小學校，岡山市立商業學校に教鞭を執り，敏腕を揮はれ，令名を博せられたる當時，屢々來訪されしが，何時も無邪氣無遠慮，恰も小兒の天眞爛漫玲瓏珠玉の如く朗らかなるに異ならず，而かも，家庭に在りては，全力を傾けて御老親に御孝養を竭され，子女の教育を全うせられ，其の後，天文博通と成られ，天文行脚として別府の僑居に來訪されたる時も，依然子供式にて，世事に拘泥さるゝこと無く，汚れたる人生を眼中に措かれず，塵外に超然とし美しき天上を友として樂み，坦懷無慾，無邪氣たる態度は，宛然少壯者の如く感じ居りたるに，はや還暦を過ぎられたりとの御文を受け，驚くの外無し．さりながら小生の年齡より推算ありしには非ず，實にや光陰は矢の如く，過ぐる月日に關守無く，加茂川の清溪流れて茲に五十餘歳，情誼は混々として盡くる處無し．乞ふ今後も既往と變り無く，決して老境に入りたりとの感を抱かるゝこと無く，何處までも少年水野式を發揮され，世俗の外に立ち眞に天を友として樂まれ，幸に百歳の天壽を全ふせられよと念じたりしに，圖らずも長逝されしは遺憾に堪えず．

聊か無辭を陳べて祝辭となす．

（昭和十三年，於別府　正五位勳四等　田中永次郎）

戰力としての天文知識

天文を知つてさへ居れば，何時，如何なる所に於いても，時刻と，方角と，經緯度とがわかるのだから，前線に戰ふ將士のため“天文は戰力”たること言ふまでもないが，殊に今日の大東亞戰爭に於いては，

(1) 戰域が地球的に廣大なること，
(2) 飛行機の戰術が發達したこと，
(3) 銃後も亦戰場であること，

のために，天文知識はもつともつと利用せられねばならぬ．本會員は皆第2第3の水野先生となつて，天文の普及に努められたし．(X)

水野千里氏執筆の天界寄稿文一覽表

番號	卷數	號次	發行年月	寄稿の題名
1	1	1	大正 9年 11月	天文と旅行
2	〃	3	10年 1月	余の天文好きとなりし經路について
3	〃	7	〃 5月	天文展覽會を見て所感
4	〃	10	〃 9月	京都天文臺の一夜
5	2	14	11年 1月	初冬の曉天
6	2～3	17, 24, 26	〃 4, 12, 翌1月	天文通信を讀みて（其一）
7	2	23	〃 11月	巨星カノープス
8	〃	35	〃 〃	天文雜話
9	5	52, 53, 55	14年 5, 6, 8月	西から東へ
10	〃	57～58	〃 10～11月	最近五年間の邦文天文書一覽
11	6	60	15年 1月	星の光り
12	〃	〃	〃 〃	岡山の氣象と天文臺
13	〃	66	〃 7月	獸類の星座
14	7	71	昭和 2年 1, 2月	臺灣に天文臺を設置せよ
15	〃	75	2年 6月	最近の邦文天文書一覽
16	〃	80	〃 11月	北から南へ
17	9	100	4年 7月	倉敷天文臺
18	〃	〃	〃 〃	昭和二，三年邦文天文書一覽
19	10	106	5年 1月	倉敷天文臺創立三周年記念式報告
20	〃	108	5年 3月	〔星座かるた〕について
21	〃	114	〃 10月	星座の歌附記，平松翁の傳記
22	11	115	6年 11月	回顧十年
23	〃	116	〃 12月	噫閑月平松誠一翁逝く
24	12	13〔illegible〕	7年 2月	昭和七年の天文界
25	〃	〃	〃 〃	元旦の記
26	〃	131	〃 3月	昭和四，五，六年邦文天文書一覽
27	〃	132	〃 4月	初等天文學講話を紹介す
28	〃	134	〃 6月	時計としての北斗
29	〃	140	〃 12月	天文の奇才中村要君を偲ぶ
30	13	141	8年 1月	瞻星臺を觀るの記
31	〃	143	〃 3月	滿洲の氣候
32	〃	144	〃 4月	鳥の星座
33	〃	145	8年 5月	昭和七年中の邦文天文書一覽
34	〃	146	〃 6月	登山者の天文學を紹介す
35	14	153, 154	9年 1, 2月	犬の星座
36	〃	153	〃 1月	太古時代の天文臺の日時計
37	〃	155	〃 3月	南の星座

番號	卷數	號　次	發行年月	寄稿の題名
38	14	156	昭和 9年 4月	昭和八年中の邦文天文書一覽
39	〃	159	〃 7月	高松宮兩殿下を迎へ奉りて
40	〃	160	〃 8月	天文教育〔星界學習後の感想記〕の感想
41	15	164	〃 12月	倉敷天文臺ヨリ
42	〃	165	10年 1月	鶴星座と海豚星座
43	〃	166	〃 2月	倉敷天文臺創立八周年記念式報告
44	〃	167	〃 3月	昭和九年邦文天文書一覽
45	〃	168	〃 4月	氣象學參考書
46	〃	170	〃 6月	標準時について
47	16	177	11年 1月	倉敷文文臺九周年記念式報告
48	〃	〃	〃 〃	小熊星座と八分儀星座
49	〃	178	〃 2月	川谷薊山
50	〃	179	〃 3月	昭和10年邦文天文書一覽
51	〃	182	〃 6月	皆既日蝕遠征各位に告ぐ
52	〃	〃	〃 〃	日蝕旅行日程
53	〃	185	〃 9月	北海道に於ける皆既日蝕遠征漫談
54	17	187	〃 11月	倉敷天文臺第五回夏期講習會報告
55	〃	〃	〃 〃	倉敷天文臺十年
56	〃	189	12年 1月	牛に因める星座
57	〃	191	〃 3月	昭和11年度邦文天文書一覽
58	18	202	13年 2月	虎に因める星
59	〃	203	〃 3月	昭和12年邦文天文書一覽
60	19	214	〃 2月	兎の星座
61	〃	217	〃 5月	昭和13年度邦文天文書一覽
62	20	228	15年 4月	龍に因める星座
63	〃	229	〃 5月	昭和14年度邦文天文書一覽

尙，岡山支部，倉敷天文臺通俗講習會報告其の他雜報に關するものが澤山ある．

會員に關する報告　(1944年-12-31締切)

(順序不同)

【新入會員】
町田　登(長野)　野田　次郎(一宮)　玉置　修(名古屋)　×平賀　毅一(豊中)
鈴木　博(吹田)　松浦幸吉(名古屋)　山本　捨吉(大阪)　鈴木　俊郎(靜岡)
藤崎　和年(大連)　林　信也(大阪)　沖　千津(東京)　毛利　清司(東京)
木元　明(大阪)　辻内順平(名古屋)　吉井文吾郎(福島)　×アナトリ・ハンヂン(旅順)
×葛原　健二(東京)　前川　弘一(大阪)　大森　和夫(東京)　德永　常則(大阪)
×佐藤　憲一(中津)　森本　浩好(神戸)　小木曾節夫(岐阜)

【觀測部入部】　武藏太陽觀測所(東京)　鹽田三四子(鹽釜)　口羽　昭(吹田)
大木　正男(栃木)　吉村　四路(東京)

(×印は觀測部を兼ぬ)　東亞天文學會事務局

觀測部月報

Monthly Report, Observing Section, O. A. A.

★

東亞天文學會

★流星課 METEORS (151)

課長 小槇孝二郎 (*K. Komaki*, Director)

東亞天文協會視測部流星課第72回報告，昭和12年三四月分

横濱市鶴見の堀田泰生氏入課．實方氏は三月4日獅子座χ群星を注視したが只一ケを見たのみ．

四月中下旬の乙女座群を堀田實方吉井3氏は見たが皆微光．

四月の琴座詳は貧弱．四月16日實方氏は蛇座より一群を見た．

72nd. Sectional Report of Meteor Observations of the O. A. A. Members for March and April, 1937.

Mr. Yasuo Hotta of Yokohama has joined our Section.

Mr. Sanekata watched the χ Leonid meteors, which were expected during March 2–4, on the night of March 4, with only one meteor apparently in his result.

The fireballs from Virgo during the first and second decades of April were more or less observed by Messrs. Hotta, Sanekata and Yosii, yielding rather faint meteors.

The Lyrid meteors were not strong in the pesent year. Mr. Yosii observed an active swarm from Serpens in the morning of April 16.

觀測の概略 Daily Summary of Observations

月 日 Date	觀測者 Obs.	觀測開始 Begins	觀測終了 Ends	時間數 Dur.	Fact-or	流星數 Mete-ors	備考 Remarks
1937年		h m	h m	m			
Mar. 30	Ko	19 53	20 53	60	0.7	7	
31	〃	21 12	21 42	30	0.9	3	
三 31	Sn	19 50	20 30	40	0.6	7	
4–	St	23 00	0 05	65	0.7	4	
月 7–	Ys	22 45	0 45	120	0.6	10	*3
13	〃	0 35	4 35	240		22	*3
15	〃	1 20	3 20	120	0.5	9	*1
17–	〃	23 40	4 20	280	0.7	21	*4
21	〃	3 30	5 0	90	0.7	10	*3

月 日 Date	觀測者 Obs.	觀測開始 Begins	測測終了 Ends	時間數 Dur.	Fact-or	流星數 Mete-ors	備考 Remarks
		h m	h m	m			
April 18	Ht	0 04	2 00	116		6	V2
四 16	Ko	3 53	4 23	30	0.8	2	
1	Sn	20 00	20 15	15	0.4	2	
月 2	St	22 20	23 00	40	0.8	2	
15	〃	22 00	23 00	60	0.8	4	V1?
2–	Ys	23 35	0 15	45		4	*2 V1
5–	〃	22 2)	1 00	160		16	*1 V1
6	〃	22 15	24 00	105		7	*2
11	〃	0 05	2 15	130	0.8	19	*4
15–	〃	23 30	3 15	225	0.75	29	*1
18	〃	0 50	3 40	170		18	*3 L1

備　考：Remarks
時刻は日本中央標準時：Time in J. C. S. T.
*：數へたるのみの流星 Meteors only counted
V：乙女座流星群 Virginid　　L：琴座流星群 Lyrid

觀測されたる大流星 Bright Meteors observed

月 日 Date	觀測者 Obs.	出現時刻 Time of Appear-ance	確度 We-ight	繼續時間 Dura-tion	光度 Magn-itude	速度 Velo-city	色 Colo-ur	出現點 Appear-ance R.A	出現點 Appear-ance Decl.	消滅點 Disappearance R. A.	消滅點 Disappearance Decl.	備考 Remarks
		h m						°	°	°	°	
April 3	Mo	23 35		?	−1.5	rS	WB?	119	+31	112.5	+21.5	Curved
1	K.S	23 5	poor	?	−8		B	180	− 8	185	−30	

時刻は日本中央標準時：Time in J. C. S. T.
Mo：望月鏸二氏（靜岡市）　　K. S：小槇正司（金屋）

たより

（前略）頃日，萬葉集の持統天皇藤原宮御造營についての
天地も　縁りあれこそ　石走る　淡海の國の
衣手の　田上山の眞木割く　檜の嬬手を……
の長歌を讀み，貴天文臺の地が甚だ由緒深きことを感じ，興味深く覺えました．
山本先生　　11月27日　　廣島　村上忠敬

會告

會誌發行遲延は，時局柄，用紙配給不圓滑と印刷所の手不足に依るもので，此の隘路打開に苦心を拂ひつゝあるから，御諒承願ひ度い，尙ほ，來20年會費並に部費は限定された用紙で，會員增加への現狀に鑑み，會則第六條に依り，前納者より優先的配本とする故，前金切の會員は至急に御拂込み願度御願迄．

尙，編輯の都合上，本月を以つて十一二月合併號とし，次ぎの第279號を第25卷の初號とする．次號には日本獨自の天文學(山本)，肉眼に見得る星數(村上)，木星觀測法(伊達)，變星報告(小澤)等が載る豫定．　　東亞天文學會

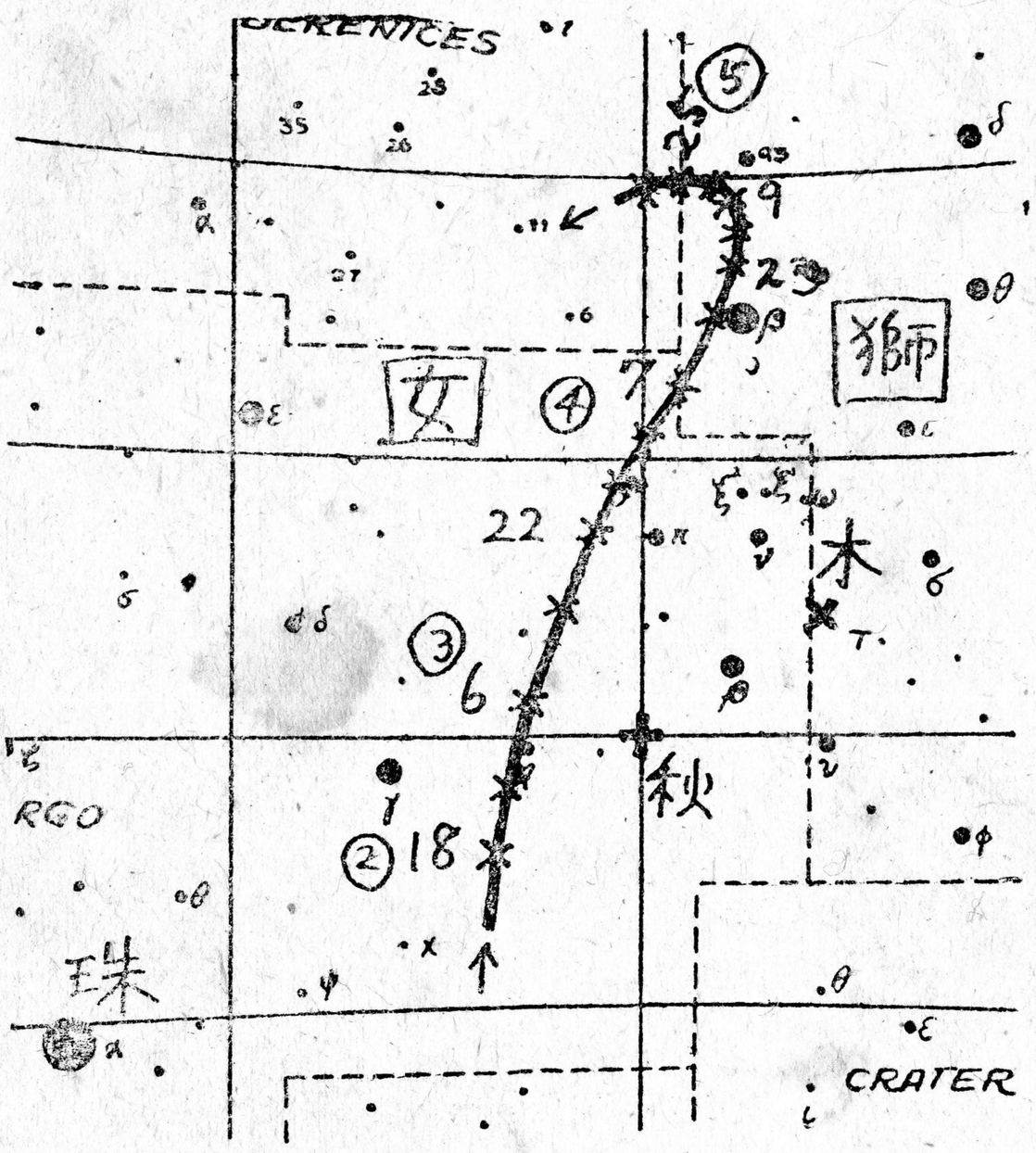
天文學雜誌第278號(第24卷) 大正九年十二月二十四日第三種郵便物認可毎月一回(一日)發行昭和十九年十一月廿二日印刷昭和十九年十一月廿五日發行

小遊星パラスと其の經路

(1945年の初春の天象)

第2號の小遊星“パラス”が，昭和20年の三月22日，乙女座の北西隅の秋分點附近で對衝となる．その前後，二月中旬から四月初までの天空經路を下に揭げる．位置は廣瀨氏の推算である．對衝の頃，光度は7等級であるから，ストゥカ圖の程度の星圖さへあれば，この星を小さい望遠鏡で見つけ出すのに困難は無い．本會の小遊星課のために此の星の測微觀測を試みる人々や，其の附近の星野のスケッチをする人々は，田上へ報告を送られんことを望む．

パラスは1802年三月にドイツ國のアマチュア天文家オルバースが發見したもので，公轉週期4年224日，軌道の半長徑2.77單位，其の離心率0.235であるが，軌道面の傾斜角は34°42′といふ驚くべきものであるため，下圖で見てもわかる通り，黃道から甚だしく逸脫してゐる．今回の地球への接近は可なり珍らしいもので，對衝期には彼我の距離は1.3單位となる．光輝が大きいのは之れがためである．



1945年 毎日9時	赤經(分點1950.0) h	m	赤緯
二月18日	12	22.7	− 4°30′
26	12	20.0	− 1 43
三月 6日	12	16.1	+ 1 22
14	12	11.0	+ 4 35
OPP, 22	12	5.3	+ 7 45
30	11	59.8	+10 43
四月 7日	11	54.9	+13 19
15	11	51.1	+15 30
23	11	48.7	+17 12
五月 1日	11	48.0	+18 27
9	11	48.7	+19 18
17	11	51.0	+19 48
25	11	54.7	+20 0
六月 2日	11	59.7	+19 56

天文學雜誌 第278號　昭和19年11月22日印刷　昭和19年11月25日發行　〔定價(停)金40錢 特別行爲稅相當額4錢〕合計金44錢 送料金2錢

編輯兼發行者　滋賀縣滋賀郡眞野村大字眞野513 郵便宛名は“滋賀縣堅田局區內”

發行所　東亞天文學會 (代表者山本一清) (振替大阪56765)　日本出版會第2種會員(第225215番)

印刷所　眞美印刷所

印刷者　京都市上京區上椹木町千本東入　橋本岩太郎〔電西陣3702〕

配給元　東京市神田區淡路町二丁目九番地　日本出版配給株式會社

定價(稅込)金四十四錢 (送料二錢)